

《眼科臨床エキスパート》 網膜変性疾患診療のすべて

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信 シリーズ編集 村上 晶, 吉村長久 編

「眼科臨床エキスパート」シリーズの最新刊として『網膜変性疾患診療のすべて』が刊行された。本シリーズは、眼科診療の現場で知識・情報の更新が必要とされているテーマについて、その道のエキスパートが自らの経験・哲学とエビデンスに基づいた「新しいスタンダード」をわかりやすく解説し、明日からすぐに臨床に役立てるという編集方針であるが、この編集方針に沿った素晴らしい本が出版された。

まず驚かされることは、著者のリストである。本当に研究の第一線で活躍されている研究者が執筆されている。第一人者による執筆により難しい内容をたくさんの方の図を用いて比較的平易に解説されているので、一般の眼科医にも理解しやすい記述となっている。一方で、「Topics」をはじめとした項目では、網膜硝子体が専門の自身にとっても初めて目にする内容も少なくなく、広い範囲の読者を対象とする一方、最近の知見を深く知りたい読者にも大変有用な本となっている。

網膜変性疾患というと、類似した臨床所見を呈する多数の疾患が含まれ、診断が難しく、さらには治療がほとんどないという現状において、何となく取っつきにくく、できれば避けたいという方も少なくないと思われる。本書のテーマに含まれる疾患が多岐にわたり、かつ最近の診断の進歩が著しいことより、本書は400ページ近い大著となっているが、第1章「網膜変

性疾患の診療総論」は網膜変性の概要がわかる素晴らしい総説であり、この総説を読むためだけでも本書の意義はある。もちろんそれに続く総論では、網膜の解剖と生理、網膜変性発症のメカニズム、診断検査(ERG, OCT, 自発蛍光, 遺伝学的検査)と最新の情報が満載されている。治療においては一部の疾患で成功しつつある遺伝子治療、再生医療、人工網膜と最新の知見を惜しみなく紹介するだけでなく、現状での診療において必須の項目であるロービジョンケアや遺伝カウンセリングまで非常に丁寧に、かつ具体的に書かれている。

先に記したように総説は20ページ足らずの少ないボリュームではあるが、これを読むだけでも網膜変性の概要が理解でき、十分な意義がある。さらに、詳しく知りたい時には事典としても役立つ構成であり、網膜変性の診療において必須の本であり、日常診療を大きく助けてくれる。網膜変性疾患の診療に少しでも不安のある先生には必読の書であり、外来に常備しておくことを強く薦めたい。

滋賀医大教授・眼科学
大路正人

B5・頁408 2016年11月
定価：本体17,000円＋税
[ISBN978-4-260-02801-1] 医学書院刊